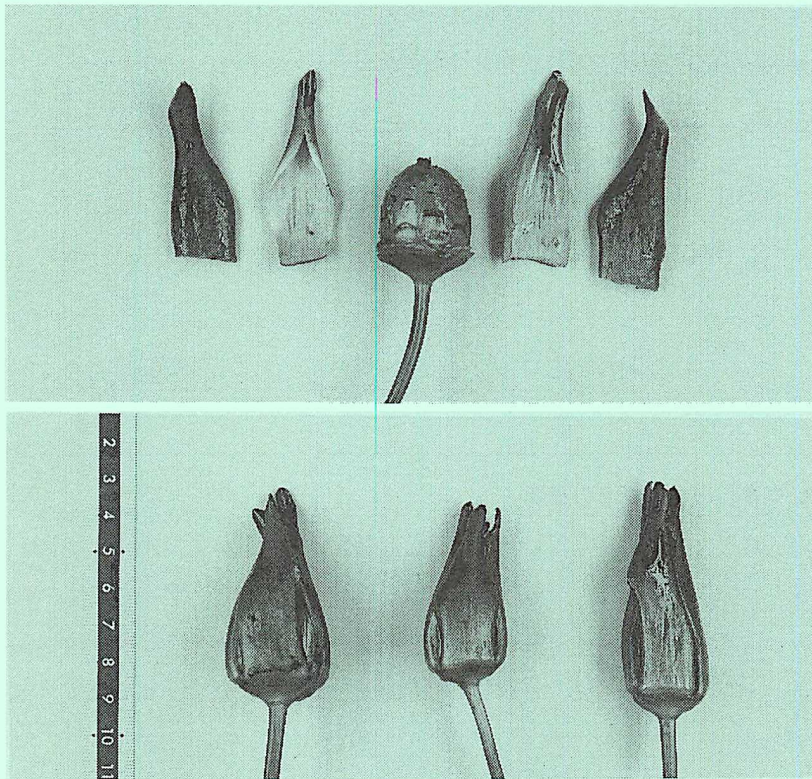


# 水草研究会会報

65号(1998年12月)



Bulletin of Water Plant Society, Japan

No. 65 (Dec. 1998)

水草研究会

— 目 次 —

浜端悦治：小川原湖（青森県）における沈水植物の分布状況（要旨）	1
春日井隆：水族館におけるアマモの育成と展示	4
高橋英樹・栞原康裕・大原昌宏：北千島パラムシル島でアカマロソウ再発見	8
橋本卓三：広島県三次市のため池に生育する浮葉型水草	10
高橋英樹：北海道雨竜沼湿原からヒメミズニラを記録する	17
土屋 守：ツリフネソウ属の新帰化植物	19
藤井伸二：琵琶湖の乙女ヶ池内湖にボタンウキクサ	21
水草研究会第20回全国集会開催報告	22
新刊紹介, その他	

〔表紙写真〕 ヒツジグサの果実

上の写真だけを見ると、はて、何だろうと思う方もおられるのではないだろうか。ヒツジグサの果実のがく片を取り除いたところだが、ヒツジグサの果実は4枚のがく片がいつまでも腐らずに果実を包んでいるので、果実本体を見る機会は少ないのである。ふだん何気なく見ているものでも、少し詳しく観察するとまだまだ未知の世界がある。

ヒツジグサは全国に分布するが、貧栄養な水質を好むために、水質の悪化とともに各地で産地が減少している。絶滅危惧種だけが危ないのではないという一例である。栽培品種の睡蓮に比べると華やかさでは負けるかも知れないが、清楚さでは一二をあらそう水草であろう。

（角 野 康 郎）